GOD WITH US

Part 8: JESUS

Message 14 – The CHRIST: Jesus' Title and Mission

神は我らと共に

パート８：イエス様

第１４メッセージ－キリスト：イエスの称号と使命

はじめに

４つの福音書に記されているイエスの生涯と宣教は、大きく前半と後半に分けられる。 前半は、世に対するイエスの提示である。 イエスが到来し、公の伝導を開始される。 ご自分が キリスト（救世主）であり、神の子 であられることを宣言される。 多くの奇跡を行われ、自分の身元を証明されるために多くを主張される。 その言葉と行動のために論争が起こる。 そして、イエスが弟子たちにアイデンティティの質問を投げかけられて前半は終わる：**あなたはイエスが誰であると言いますか？**

４つの福音書が記す、イエスの生涯の後半は、世の救い主としての使命に焦点を当てている。 その物語は、エルサレムへの旅路と、罪の代償として、その命を捧げるための十字架へと向けられる：

前半 －後半

キリストの紹介 - キリストの苦難
人としてのキリスト - キリストの働き
イエスは誰？- イエスの使命は何？

前半と後半を結びつける共通のテーマがあるとすれば、イエスがキリスト、生ける神の子であるという問題である。

物語の要：ペテロの告白

その福音の物語の「要」は、ピリポ・カイザリヤでのペテロの告白である（マタイ１６章、マルコ８章、ルカ９章）。 それは前回この場面に焦点を当てた箇所であるが（第１２メッセージの注を参照）、今やまさにその個所がイエスの生涯の後半への入り口として機能する。

イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。（マタイ１６：１３－１７）

ペテロの告白は素晴らしかった。 その場面が福音書の前半の頂点であるのはなぜでしょうか。 福音書作家は、読者（私たちを含める）を、イエスの真のアイデンティティーに関する決断へと導こうとしていたからである。 私たちは、イエスがキリストであり、生ける神の子であると信じているでしょうか？ そこが重要な問題である。

イエスの受難の場面で、ユダヤ人の大祭司カヤパの前に立ち、 大祭司がイエスの自分についての主張に関して尋問しているところ（死の数時間前）まで、一旦物語を早送りします：

しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。（マタイ２６：６３）

イエスは、旧約聖書の重要な箇所を引用して、間違いなくご自分がキリストであることを断言された（ダニエル書７章１３，１４節）。 イエスは神の御子、御父によって世界を支配することを認められた者である！

イエスの明確な答えを聞くと、大祭司は自分の着物を引き裂き、イエスは神を冒瀆していると非難した（自分を神であると主張することによって）。 その主張のために死刑判決を定め、イエスに唾を吐き、殴り、嘲笑し始めた。 数時間後、イエスはローマの十字架刑によって十字架上で死なれた。

物語の後半の初めに、イエスはキリスト（救世主）であるというペテロの告白を置き、後半の終わりに、イエスはキリストではないという大祭司の決定を置くことによって、福音書家たちは、それが重要な質問であるということを私たちに提示している：イエスはキリスト（救世主）ですか、キリストではありませんか？

こだわりポイント：死にゆくキリスト

もし、イエスがキリスト（救世主）であり、神の子であり、それを証明するために多くの印しを行ったなら、なぜ人々はキリストとして受け入れることが出来なかったのでしょうか？ その理由は、メシアがどのようなものであるべきかについての彼らの先入観に合わなかったからである。

- 救世主が彼らの見解に正確に一致するであろうと思った。
- 救世主がより「高貴」、「より荘厳」だと思った。
- 救世主が政治革命を起こすと思った。
- 救世主が宗教的エリートとだけ付き合うと思った。

人々は、キリストがどんなお方で、何をされるかについて多くの異なった期待を持っており、イエスは、それらの共通の期待を満たされなかった。

しかし、イエスについては、最も献身的な信者でさえもがつまずく原因となった箇所が一つあった。**イエスがエルサレムにおいてのご自分の死について語られた際**、弟子たちでさえ、イエスがキリストであると信じることに戸惑った。

再び、ペテロの偉大な告白と、ペテロとイエスとの間で交わされた言葉の直後に戻ります：

この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。（マタイ１６：２１－２３）

キリストが死ぬと聞いたペテロは、ショックのあまり、 否定した。 それは私たちが理解するキリスト像に反し、 神がその御子に、生ける神の子、キリストに、そのようなことが起こることを決して許されるわけがないと答えた。

当時のユダヤ人にとって、「苦しまれる救世主」という考えは、大きな障害となった。十字架にかけられた人が神の油がそそがれたお方であり得ると信じることは、特に困難であったはずである。 その理由は、申命記に記されていた：

木にかけられた者は神にのろわれた者だからである。（申命記２１：２３）

上の箇所から、木にかけられている人は、神に呪われた悪魔であることが明らかであった。 では、なぜキリストが木（木製の十字架）にかけられたのでしょうか。 どういう経過で、救世主が神に呪わるに至ったのでしょうか。 理解出来るはずがなかった。 だからこそ、弟子たちでさえ、これを完全に理解することは困難であった。

全てはイエスの使命の理解に帰着する。 そこは福音書の後半の鍵となるポイントである！ 福音書作家たちがこのことに多大な時間を費やした理由がそこにある。下記は福音書作家たちがイエスの<u>苦しみと死</u>（特に彼の人生の最後の週）をどれほど強調したかを一覧できる興味深い統計である：

イエスの人生の最後の週に焦点を合わせた各福音の量：

マタイ 1/3　マルコ 1/3　不可 1/4　ヨハネ 1/2

彼らは皆、パッションウィークに、かなりの焦点を当てた。それこそが重要な問題であるからである。 イエスは、キリストであり、生ける神の子であった。 しかし、「生ける神」から「死にゆくキリスト」となるように遣わされたのです！それこそが人々にとって最大のポイントであったからである。

多くの人々は、「神を信じている」と言うでしょう。さらには「イエスを信ている」とさえ言うでしょう。 しかし彼らが、しばしば意味するのは、神とイエスの存在を信じるということである。待望のユダヤ人メシア（救世主）であったことを信じることとは別である。全人類の罪の犠牲として、命を捧げるために、神によって任命されたイエスが、待望のユダヤ人メシアであったと信じるということも、また別である。あなたはどうでしょうか？あなたが信じるイエスについて説明してください。 福音書作家たちが出した結論 にたどり着かれているでしょうか？ 生ける神が、その御子を死ぬためにこの世に送ってくださったと信じておられるでしょうか？

イエスの死に関する多くの預言

イエスが死にゆくキリスト（救世主）であるという考えは、私たちのイエスの真の使命を理解するための鍵となる。 イエスは、主に教師、預言者、模範、あるいは支配者になるために世界に来られたわけではなかった。罪のために死んでくださるために、この世に来てくださった。それこそが、ご自分のの死について何度も語られた理由である。彼の伝導の早い段階で、イエスは宗教指導者のグループと交流を持っておられた：

ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それだのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。（２：１８－２２）

イエスの公の伝導の前半が結論に近づくと、イエスの死についての言葉が原因で大きな分裂を引き起こした：

父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである」。 これらの言葉を語られたため、ユダヤ人の間にまたも分争が生じた。そのうちの多くの者が言った、「彼は悪霊に取りつかれて、気が狂っている。どうして、あなたがたはその言うことを聞くのか」。他の人々は言った、「それは悪霊に取りつかれた者の言葉ではない。悪霊は盲人の目をあけることができようか」。（ヨハネ１０：１７－２１）

人々は、イエスの死についてのイエスの言葉を「メシア」の一般的な理解に当てはめるのに苦労していた。

福音の物語の後半が十字架へと近づくにつれ、イエスはご自分の死についてより頻繁に話された。

この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。（マタイ１６：２１）

一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。（マタイ１７：９）

人の子もまた、そのように彼らから苦しみを受けることになろう」。（マタイ１７：１２）

彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。弟子たちは非常に心をいためた。（マタイ１７：２２，２３）

「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に渡されるであろう。彼らは彼に死刑を宣告し、そして彼をあざけり、むち打ち、十字架につけさせるために、異邦人に引きわたすであろう。そして彼は三日目によみがえるであろう」。（マタイ２０：１８，１９）

すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう』。そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。（マタイ２１：３８，３９－拒絶された息子のたとえ話）

イエスはこれらの言葉をすべて語り終えてから、弟子たちに言われた。「あなたがたが知っているとおり、ふつかの後には過越の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引き渡される」。（マタイ２６：１，２）

すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受ける時がきた。よくよくあなたがたに言っておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。（ヨハネ１２：２３，２４）

福音書作家たちは、なぜキリストの受難にそれほど多くの時間を費やしたのでしょうか？ なぜイエスは、その死を何度も預言したのでしょうか。 その理由は、この事実を受け入れるかどうかに、私たちの救いがかかっているからである。

イエスは、私たちの罪が贖われるように、
生ける神から死にゆくキリストになるために遣わされた。

私たちは、イエスが苦しんで下さったメシア（救世主）、いけにえの子羊なるメシア（救世主）、死んで、復活されたメシア（救世主）であると信じなければならない。 人としてのイエス（福音書の前半）を信じるだけではなく、イエスの任務（福音書の後半）を信じなければならないのです。

私たちは申命記２１章２３節、「木にかけられたものは神に呪われた者である。」と記されている通りを信じなければならないのです。

しかし、私たちはまた、その聖句と、イエス様が私たちのために木にかけられた際に、イエス様に起こったこととの間の因果関係も確立しなければなりません。

キリストを信じる者となる前に、十字架刑を受けられたキリストという問題に、理解を苦しんだ使徒パウロも、最終的にその因果関係を確立したのです。 パウロは、ガラテヤ人への手紙の中で、旧約聖書の第５冊目の本である申命記２１章２３節を引用して説明している。

キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。（ガラテヤ人への手紙）

イエスは、私たちのために呪われた。
私たちの罰を受けられた。
罪の犠牲の子羊となられた。
私たちのために死なれた。

イエスの弟子を含めて、当時の人々を困惑させたのは、私たちの罪の身代わりの贖いとなられたキリストの働きであった。 そこがキリスト教の中核である。 私たちの罪と神に背を向けたことによって引き起こされた死刑から、自分自身を救うことは不可能である。 霊的に生き返らせることも不可能である。 ですから、神の子であるイエスは、私たちの身代金として、ご自分のお命を与えてくださることによって、私たちを救うために来られたのです。 人間の肉体を身につけることによって、神ご自身が自分の法を果たし、罪と死を克服することが可能となったのです。 その様な神秘的な謎を完全に理解することは不可能である。

たとえ私たちが神に背を向けたとしても、神は、私たちに慈悲深く情け深くいてくださる。最初の人間は、神による愛と従順のテストであった、一本の木からだけは、実を取って食べてはならないという神（実際、人間になられる前の「子なる神」）の命令に反することを選んだ。**「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」。（創世記２：１６，１７）。**神に背を向けた後、彼らは即時に神との関係の内に霊的な死を経験した。（そして、何年も後に、二人は身体的に死んだ。）**主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。（創世記３：２１）**後に、動物の犠牲の目的について、神は次のように説明されました。**肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。（レビ記１７：１１）**今、ご自分の命と引き換えに、神とあなたの関係を修復する経路を与えてくださっている、哀れみ深く、情け深い神に感謝しましょう。

概要：ほとんどの壮大な英雄物語の中では、先ず最初に、我々は重要人物に紹介される。 それから、彼らの真の使命への旅へと連れて行かれるでしょう。 まさに福音書作家が用いた業そものです。 福音書作家たちは最初に、イエスはキリスト（救世主）生ける神の子であることを私たちに提示し、私達をエルサレムへの旅に連れて行った。その中で、父によってイエスに割り当てられた任務の成就の詳細を見る：

「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。（マルコ１０：４５）

イエスの弟子の中でも最も長生きし、「ヨハネの福音書」の作家、「ヨハネの手紙第一、第二、第三」、さらに、聖書の最後の本、「ヨハネの黙示録」を記したヨハネは、イエスについての多くの特異な説明やイエスの会話を記録した。 その一つに、ヨハネの福音書第１１章の親愛なる友であるラザロが病死し、イエスがラザロを死から蘇らされる物語がある。イエスがラザロの家族を訪問するために、ベタニヤの郊外にやって来たとき、イエスは、最初にラザロの姉妹、マルタに会われた。 マルタは、ラザロと姉のマリアと共にイエスの教えに耳を傾け、多くの真理を学んだ。 墓に葬られて４日も経つ兄弟を蘇らせるために、イエスが来られたなどと知る由もなかったマルタは、それでも、イエスをしっかりと信じイエスに宣言した。**「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております」。（ヨハネ１１：２７）**

ヨハネの福音書の終わりに、完全なイエス・キリストの見方をヨハネ独特の方法で選択することを目的とした声明を読みます：

イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。（ヨハネの福音書２０：３０，３１）

永遠の命の賜物を受け取ることは、イエスが死にゆくキリスト、神の子であると信じることにかかっています。 それが福音書作家たちがイエスの受難を重大視した理由である。 それは文字通り、神との関係における永遠の命への鍵である。

ユダヤ・キリスト教の父なる神を信じ、罪のない人生を送り、神へ帰する道を私たちに示すために、敵対する世に御子を送り込まれたという事実は、この聖書の神についてのみの教えである。人類には、罪と死を克服することが不可能であるため、神ご自身が犠牲となってくださったのです！まさに 驚くばかりの愛です！ それらの真理を私たちに明らかにしてくださっている主から離れて、私たちはキリスト、すなわち生ける神の子であるキリストを知り、信じることは決してあり得ない。

討論のための質問

１．人生で、神を信じ、イエスの存在も信じていたけれども、生きた神によって、イエスが死にゆくキリスト（救世主）として、送られたという聖書の教えを理解することも信じることもできなかったことがありますか？

２．イエスが救い主であるという理解と信念に、いつどのようにたどり着かれましたか？もし、まだその教えを模索しておられるならば、あなたは現在、どの辺りまで理解しておられるでしょうか？

３．旧約聖書は、メシアが来ると教えています。人々が理解していなかったのは、メシアが二度来られるということでした。そして二度目に、すべての主としての人間の歴史の終わりに来る。イエスは三位一体の「父、子、聖霊」の２番目の人物です。メシアの来られた二つの到来についてのあなたの現在の理解を共有してください。

４．救世主の初の到来の７００年以上前に書かれた、イザヤ書５３章の「苦しむ僕」についての大いなる預言を読みましょう。イエスの物語が展開する前に生きていたとしたら、この預言はあなたにどのように影響を与えたと思いますか？イエスの物語に照らして、この章はあなたにどのような影響を与えますか？